

第5分科会「豊かな人間性」運営概要

【研究課題】 豊かな人間性を育む教育課程と校長の在り方

【研究の視点】 1 新たな社会を生き抜く人権感覚の育成

2 豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善

I 分科会の研究協議の運営計画

知識基盤社会・グローバル化の進展により、他者との関わりを苦手とする若者の増加、コミュニケーション能力の不足によるいじめの増加など、教育界にとって取り組むべき課題は多い。

子どもたちが夢や希望をもって未来を開き、人間としてよりよく生きようとする力の育成や他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、正義感や公平さを重んじる心の育成、規範意識の育成など、心の教育にかかわる教育実践を推進することが、ますます重要になってきている。

第5分科会においては、道徳教育や人権教育の充実、家庭や地域と連携・協働した取組の実現のために、教育課程の編成・実施・評価・改善を図る校長の役割と具体的な方策を明らかにする。次の2つの視点から検討、討議を行う。

「視点1 : 新たな社会を生き抜く人権感覚の育成

- ① 子どもたちが互いに認め合い、思いや考えを出し合う豊かな人間関係を高める教育活動
- ② 人権感覚を育むための家庭や地域社会との連携と協働

「視点2 : 豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善

- ① 豊かな関わりの中で人間関係や自己の生き方を深める教育課程の編成と実施及び評価、改善
- ② 全教職員が「心の教育」にかかわる教育理念を理解し、教育活動全体を通して協働で創造する教育活動
- ③ 共通理解を深め、一体となって豊かな心を育む学校、地域、家庭の連携

II これまでの成果と課題 ～ 平成25年度 道小：渡島・北斗大会から ～

1 成果

- ① 視点1では、教育目標の改定、児童会活動を「人権活動」と位置付けるなど、具体的な教育活動の場を設定し、「人権感覚」を育成するようにした。
- ② 視点2では、「道徳性の育成」のために研修を充実させ、道徳の授業改善、教務・生徒指導・研究部などの連携確認等に取り組み、全教師が実践意欲を向上させるようにした。
- ③ 協議の中では、心を育てる教育の展開のためには、校長のリーダーシップによる教職員の意識改革が大切であることが確認された。

2 課題

- ① 道徳教育を児童の実態、推進の課題、家庭や地域の期待、社会的な要請等を踏まえて、学校としての基本的な方針を示し、適切なマネジメントサイクルを確立が大切である。
- ② 「人権教育」は全教育活動を通じて指導するもので、そのため、教職員の人権感覚の育成が大切である。
- ③ 校長は、学校や地域の実態・課題を把握し、指導計画を策定し、全校体制を充実させ、評価・改善に努め、推進することが大切である。

Ⅲ 研究発表の概要

- 1 研究発表者 石狩地区 千歳市立支笏湖小学校 品 田 敏
- 2 発表題 「互いに認め合い高め合い 心豊かに行動する子どもの育成」
- 3 発表の要旨
「豊かな人間性を育む」教育課程推進のための以下の取組を紹介している。
 - ① 道徳指導に関わる視点を明確にして教職員に示し、「具体的な方策」を設定し、人権感覚と豊かな心を育てる自校の道徳教育の見直しを行った。
 - ② 道徳の時間と具体的な実践のつながりを明らかにして、道徳性の育成に努めた。
 - ③ 地域の特色を十分に理解し、短所を長所に変える発想、思考をもって、教育活動に生かせる地域の環境資源、人的資源を吟味し、教育課程に取り込んだ。
 - ④ 教育資源の発掘、関係機関との連携、情報発信、開かれた教育活動の推進、教職員同士の密な情報交換による学校経営参画意識の醸成など、校長のリーダーシップの重要性を提案している。
 - ⑤ 石狩地区校長会の研究テーマである「命を守る豊かな心と健やかな体を育む教育課程の管理」「自己肯定感を高め、命の大切さを身に付けさせる道徳教育の推進」との関連性や石狩管内の大規模校における道徳の現状を紹介している。
 - ⑥ 課題として、小規模校ゆえの人間関係の固着化を指摘している。

Ⅳ 協議の流れ

- 1 開会の言葉
- 2 担当者紹介・司会者挨拶・名刺交換 (10分間) 13:00～13:10
- 3 趣旨説明 (10分間) 13:10～13:20
- 4 研究発表 (25分間) 13:20～13:45
■パワーポイント・映像資料等を活用し、内容をわかりやすく伝えます。
- 5 質疑応答 (20分間) 13:45～14:05
■質問内容をホワイトボードに記録し、協議に活用し、活発な議論を促します。
- 6 休憩 (15分間) 14:05～14:20
- 7 グループ協議 (60分間) 14:20～15:20
■以下の視点で、グループごとに協議する。自校の実践資料を全員が持ち寄り、交流をします。
討議の柱① 「豊かな心」「人権感覚」育成のための実践、教育課程の工夫はどうあるべきか。
討議の柱② 「豊かな心」「人権感覚」育成の実践を推進するために、校長のリーダーシップをどのように発揮するのか。
■グループは5名程度で構成し、率直で活発な意見交流できるようにします。
- 8 休憩 (15分間) 15:20～15:35
- 9 全体協議 (30分間) 15:35～16:05
■グループ協議内容の発表は、視点①発表グループと視点②発表グループに分けます。
■キーワードを挙げ、協議の内容を端的にまとめ、課題の焦点化を図ります。
- 10 研究協議のまとめ (20分間) 16:05～16:25
■成果と課題を明らかにします。日高大会後も皆さんで連携・交流ができれば幸いです。
- 11 連絡 (5分間) 16:25～16:30
- 12 閉会の言葉

※ 自校の実践資料については、A4版1枚程度のレポートを考えています。詳細は、HPに掲載します。